第３　学校教育計画、学校評価 及び 外部評価委員会 の概要

１．　令和４年度　昇陽中学校・高等学校「学校教育計画」及び「学校評価」　事業報告

昇陽中学校・高等学校　校　長　　竹下　健治

Ⅰ　めざす学校像

建学の精神

「奉仕のこころ」

1　「For　Others～奉仕のこころ～、志高く。」（建学の精神の再確認）

2　「10 年後の私たちのために」将来の予測不能な社会を生き抜くことのできる人材づくり

教育目標、めざす生徒像

1　思いやりや感謝の気持ちや「奉仕のこころ」などを素直に表すことのできる高い人間性の育成

2　基礎学力を十分に積みあげた上で、自分の頭で課題や問題に向き合うことのできる思考力・判断力の育成

3　部活動や学校行事などに努力し共に励まし喜びを分かちあえる豊かな心と健やかな体の育成

4　個々の生徒の個性や能力や特性に合わせ、生徒の力を最大限に伸ばし、生徒・保護者に「行きたい・通わせたい」と思われる学校づくりを目ざす。

Ⅱ　中期的目標

1　基礎学力の充実から自ら考える力へ　「授業第一主義」

（1）　基礎学力の充実と「主体的・対話的で深い学びへ」

ア　授業学力の充実として宿題・課題とその定着確認を日々行う。また、自習室の設置や放課後、長期休業中の学習促進を図る。　※学習指標である GTZ 指標を基に、各コースの学力定着・学力向上を図る。

イ　「主体的・対話的で深い学び」のために ICT 教育やアクティブラーニングを推進する。

ウ　IT フロンティアコースは４分野（プログラミング、制御「ロボット・ドローン」、メディア、ｅスポーツ）を柱として育成する。

エ　各コースの目標を設定し、積極的に資格、検定を取得させる。また、進学・特進コースは模試による学力チェックや英語力の向上を図る。

2　個々の生徒に輝く居場所を作り、活力ある充実した学校生活を過ごさせる。

（1）　全コースで、時代に即した活力ある人材育成を図る。そのため、基礎学力を定着させ、応用的学力を向上させる。また、部活動や学校行事を活性化させ、生徒の可能性を最大限伸ばす。

（2）　「For Others～奉仕のこころ～、志高く」の精神を実現し、人材育成の重点を、「教養」「英語（国際）」「ICT」とする。「教養」では、国語力、論理力、スポーツ、芸術、倫理観などの育成を図る。

（3）　100 周年記念事業等で、ICT 環境や食堂やトイレなどの改修を行い、学習環境の改善を図る。

3　知・徳・体のバランスの取れた教育と豊かな人間性の醸成　「生徒指導なくして学習指導なし」

（1）　授業に集中できる学習環境、授業規律や生活習慣の改善

ア　時間の厳守、挨拶、身だしなみを整えさせる。予鈴の実施で「ベル始業」を徹底させる。

（2）　人権意識の醸成

ア　人権研修（生徒向け、教職員向け）の実施（差別事象、ハラスメント、SNS、いじめ等多様な人権教育の指導）

4　学び、協働できる教員集団

（1）　授業力向上の取組み

ア　相互授業見学や研究授業・研究討議で授業力向上に努める。また、積極的に外部研修や外部視察を行い、授業力向上の方法や学校運営方法などを学ぶ。

（2）　各種研修の実施

ア　教職員研修委員会、外部学習委員会を設置し、学校運営、学習指導、生徒指導等について研鑽の機会を設ける。

イ　ICT 教育や新学習指導要領や人権問題や服務などについての研修を実施する。

（3）　その他

ア　「チーム昇陽」の構築…組織運営、協働の意識を持つ。機動力ある組織作りと小会議やミーティングの開催

イ　「昇陽スタンダード」の策定や改訂を通じて、コンプライアンス（法令遵守）を徹底させる

ウ　ICT 環境を整え、ホームページを充実させる。（記録、更新の促進）

5　本年度、策定される中長期ビジョン「SHOYO　NEXT　10YEARS」に則り、学校改革を進める。全ての教職員は、学校経営の当事者意識を持ち、毎年度その評価指標を検証する。

Ⅲ　本年度の取組み内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組み計画・内容	評価指標	自己評価
１ 基礎学力の充実から自ら考える力へ	ア　基礎学力の充実		・学校教育自己診断での生徒の「授業関係」肯定的評価 3%上げる。	・「授業関係」肯定的評価 4.7%（高校）○ −6%（中学）△
		・学力指標 GTZ による学力定着および学力向上を図る ・宿題・課題とその定着確認 ・自習室の設置	・基礎学力テスト等の分析・検討 ・各コースの GTZ を下げない。 ・新自習室の設置	・進路部で毎回確認 ・各クラスで上昇◎ ・新自習室「昇陽塾」設置◎
		・放課後、長期休業中の講習の充実	・講習の開講日数および参加者増加	・開講日数および参加者増加している。◎
		・朝の HR に朝読と朝テスト ・ベルリッツ導入による 2 技能強化	・朝テストの実施率	・朝テスト 1 年週 2 回、2 年週 3 回実施○
	イ「主体的・対話的で深い学び」の実践 ウ　ＩＣＴ教育の展開	・ICT 教育やアクティブラーニングの研究授業実施 ・中学校 1 年、高等学校 1 年全員に、1 人 1 台のクロームブックを使用させ、新たな ICT 教育の取組みを行う。	・ICT 教育関係施設整備状況及び研究授業実施状況 ・ICT 機器の導入 ・ICT 教育事例 ・週 1 回放課後の活動状況	
	エ　ＩＴフロンティアコースの 4 分野の展開	・プログラミング、制御「ロボット・ドローン」、メディア、e スポーツの取組み		・1 年 e スポーツ活動、2 年クラブ紹介の映像作成◎
	オ　各コースの目標設定・取組み	・キャリアビジョンの形成	・キャリアビジョン形成取組み	・スタディサプリ適性診断や分野別説明会○
		・英検、GTEC の充実 ・英検、数検、漢検の受検促進	・英語の外部検定試験合格者数（英検、GTEC）	・英検高校 2 級 6 名（昨年 1 名）、準 2 級 31 名（昨年 23 名）◎
		・特進、進学コースの進路実現	・難関私立大学合格者数	・関西大学 1 名龍谷大学 6 名、京都産業大学 2 名など合格◎
		・進路決定率を高める	・就職希望内定率を 100%	・就職希望未決定 1 名○
		・就職・公務員希望者の進路実現 ・模試による学力評価 ・パティシエコースに製菓衛生師資格取得へ	・公務員試験合格率	9 人受験で 6 名合格（2 名市役所合格）◎
		・福祉コースの進路実現	・介護福祉士国家試験合格率 80%以上	・介護福祉士国家試験合格率 94%　◎
		・中学校において英検・漢検・数検を更に受験させ、実績を上げる。	・中学校英検等、昨年度以上	・英検（中学）2 級 1 名（昨年 0 名）準 2 級 3 名（昨年 2 名）○
		・放課後、昇陽塾を開き、個々の生徒の学力に応じた指導をおこなう。	・学校教育自己診断での「進路指導」関係評価 3%上げる。	・「進路関係」肯定的評価６％（高校） －４％（中学）
		・各コースのカリキュラム変更準備	・昇陽塾の利用状況	・昇陽塾毎日実施
２ 輝く居場所を作る	（1）新コースの立上げと人材育成など	・進学コースとビジネス・IT フロンティコースでの取組み ・全てのコースの学力育成と特色ある取組み	・進学Ⅲコースの講習等の参加率 ・学校教育自己診断の学校満足度の上昇	・土曜日、7 限はほぼ全員参加◎ ・学校満足度 4.8%（高校）2.8%（中学）上昇◎
	（2）「For　Others」などの人材育成	・各コースで「For　Others～奉仕のこころ」の取組みを行う。	・「For Others」各コース年 1 回以上の取組み	ヘルスニュース発行（看護）○ ケーキ作成・提供（パティシエ）○
		・	・海外修学旅行や海外研修の取組み模索	・コロナで実施できず△
	（3）施設整備の充実	Ｉ00 周年記念事業などで施設整備	・キャリアパスポートの作成 ・ICT 環境、食堂、トイレなどの施設整備 ・「G　Suite For Education」の導入	・学習ポートフォリオ作成○ ・導入済み

３ 知・徳・体の教育と豊かな人間性の醸成	ア　授業に集中できる学習環境と授業規律 イ　人権意識の醸成 ウ　学校行事や地域ボランティア、部活動指導の活性化	・生徒による挨拶運動の実施 ・正門での「正門一礼」の実施 ・予鈴や入室指導の継続 ・「5分前集合」を徹底させる ・「昇陽手帳」の使用（1・2・3年生） 遅刻指導の実施 ・通学指導の実施 ・生徒、教職員向け人権研修の実施（SNS、ハラスメント等の研修） ・強化クラブの充実	・週１回生徒会、部員による挨拶運動実施 ・教員による入室指導後ベル始業の徹底 ・学校教育自己診断「生徒指導関係」肯定的評価3%上げる ・「5分前集合」「授業集中状況」 ・遅刻件数を昨年度比15%減少 ・強化クラブの全国レベル大会出場 ・社会貢献と地域連携の取組み ・部活動参加率	週１回以上運動実施◎ 「生徒指導」関係肯定的評価7.7%（高校）－3.2%（中学）○ 遅刻総数は23%減少、欠席数25%増加（総生徒数８%増加）○ ・中学校ソフトテニス部全国優勝◎ ・男子バレーボール部春高バレー出場◎ ・「はるフェスタ」でお菓子販売・阪神百貨店パンとお菓子甲子園・ふるさと返礼品（パティシエ）◎ ・部活動参加率47.3%◎
４ 学び連携できる教員集団	ア　授業力向上の取組み イ　各種研修会の実施 ウ　その他	・授業公開週間の設定 ・授業アンケートの実施 ・各教科・科目のシラバスの充実 ・夏季休業中の外部研修受講 ・先進校訪問 ・各種委員会（将来構想委員会、ICT検討委員会、入試問題検討委員会、デジタル委員会など）による問題対応 ・生徒の情報共有を進める ・ICT環境の整備 ・チーフ会議やケース会議開催 ・学校ウェブサイトの刷新	・相互授業見学、研究協議の実施 ・教職員「昇陽スタンダード」の策定と改訂 ・観点別評価実施状況 ・教職員研修会の開催件数 ・先進校訪問 ・外部学習委員会（仮称）の設置 ・チーフ会議ケース会議の開催状況 ・学校ホームページの更新状況	・授業研究週間実施○ ・昇陽スタンダードの策定と周知○ ・観点別評価完全実施◎ ・先進校訪問実施できず△ ・外部研修委員会設置○ ・教育相談委員会設置（欠席者の情報共有）○ ・チーフ会議ケース会議適宜開催○

２．　令和４年度　昇陽中学校・高等学校 外部評価委員会　事業報告

〇根拠規定　：　学校法人淀之水学院　外部評価委員会規程（平成 30 年９月８日制定）

第１回　外部評価委員会

令和４年 10 月 15 日（土）　出席者：保護者会会長、此花区長、中学校校長、大学教授、教育関係者、学校事務局

① 委員会協議内容
（ア）　令和４年度学校教育計画について
（イ）　本校の現状報告と質疑応答

② 外部評価委員からの意見と助言
- 昇陽は、良い理念のもとに教育されている。学力のみならず、いろいろな面で生き生きできる学校だと情報発信してほしい。
- 近隣との方々とのつながりを強めたら面白い。生徒の活躍の場ともなる。For　Others の考えから、自分と違う相手を理解して尊重する、多様性やダイバシティをイメージするとイメージしやすい。昇陽スタンダードは生徒も知ってほしい。自分の先生は、こういう視点で指導しているという観点を伝えた方が良い。
- 外部資料を取り入れている点は良い。アフターコロナ、ウィズコロナの時代に来ている。地域の小学校などともつながりが出来ると良い。
- 不登校や不本意入学の生徒が、この学校でこれを頑張ろうというものが早く見つかると良いと思う。パンフレットの生徒の表情が良い、コースごとで頑張っているのがよく分かる。

第２回　外部評価委員会

令和５年３月 11 日（土）　出席者：保護者会会長、此花区長、中学校校長、教育関係者、学校事務局

① 委員会協議内容
（ア）　令和４年度「学校教育計画」および「自己評価」の結果報告

（イ）　学校教育自己診断アンケートの総括報告
- 高等学校は、学校満足度が約５ポイント上昇したのを始め、ほぼ全ての項目で昨年度より上昇した。特に、「学習関係」の数値や「部活動が充実している」の数値が上昇した。しかし数値的にまだ低いので上昇させていきたい。特に、「あなたの個性や能力が発揮できていますか」の数値や「学校の施設・設備は満足していますか」の数値が昨年度より上昇したが、数値自身低かった。
- 中学校は、学校満足度が約２ポイント減少したが、94.4 ポイントで数値自体は高い。全体的には高いが、学習関係の「分かりやすく学習習慣が身につく授業である。」や「授業の進み方が適切で、授業でつまずくことが無いように配慮されている。」は大きく下げた。学習の面で個々の対応を細かく見る必要がある。
- 保護者に関して、高校保護者は全体の項目で上昇している。特に、「昇陽高校は社会に出るために基本的な考えや行いを身につけさせようとしていると思われるか。」が５ポイント上昇した。一方、「学校の施設・設備について十分に整備・管理が行われているか」が５ポイント減少した。
  中学校保護者は、学校満足度は５ポイント減少した。「保護者懇談会は満足できるものであった。」や「学校行事や部活動は学校生活を充実させている。」などが大幅に上昇した。ただし、「防犯、防災、安全管理への対策が十分に整っている。」は大幅に減少した。防災教育や安全管理への見直しを考える必要がある。

（ウ）　外部評価委員からの意見や助言
- 肯定的でない評価について、何故そうなのか分析する必要がある。満足と答えている生徒についても、何が満足なのか、またプロセスの評価も必要。
- 書かれていないだけかもしれないが、SDGS に取り組む方が良い。Sustainability に意識が弱いと人生生き抜けない時代である。
- 中学校の立場から見ると、受験するのが難しい学校になってきたが、保護者に推薦できる学校だ。多くの生徒が希望している。ただ、昇陽中学校で授業の進み方で学校評価が下がっているのが気になる。
- 昇陽塾は、進学希望者メインで、それ以外の生徒の自習する場がないと聞いている。欠席、遅刻が増えているのも気になる。→（学校）昇陽塾は誰でも使えるが、生徒への連絡をきちんとする。コロナで全体として休みが多くなった。しっかり対策を打っていく。
- 学校満足度は、上昇しているが、成績や出欠のように数字がはっきりしているものではない。要求水準が高くなると満足度も下がる。数字の額面通りに見てはいけない。満足度が高いのに学力が伸びていない生徒はいないのか？意欲ある生徒も伸ばすのと学びに向かっていない生徒を伸ばすのは、また違う。SDGS については教科横断的に取り組んでほしい。ミネルヴァ・プランの主権者教育に期待する。
- 学校教育自己診断について、高校生はほとんどの項目で昨年以上に肯定的評価が上昇している。着実に学校の教育方針が根付いていると思われる。